



発信年月日：令和5年(2023年)2月6日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A22016
部門分類：160 果樹
発信者名：村井、柴田

ナシにおける「グリーンでスマートな栽培体系」への転換に向けた検討

琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会において、今年度の実証結果と次年度の課題が話し合われました。

琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会では、環境にやさしい技術と省力化技術とを組み合わせたグリーンでスマートな栽培体系の導入を目指しており、当課は天敵製剤の活用による化学合成農薬使用回数の削減とロボット草刈機導入による除草作業時間の削減を提案して、その実証支援をしてきました。

令和5年1月27日、同協議会により検討会が開催され、当課、守山市役所、生産者代表のほか、導入予定技術「天敵を主体としたナシのハダニ類防除体系」の開発元である農研機構植物防疫研究部門より3名の研究員の参加（計11名）がありました。

当課は、今年度の実証結果の説明と来年度の実証すべき内容についての提案を行いました。また、農研機構からは、天敵製剤を活用した技術の導入に向け重要なポイントについての説明をいただきました。これらの説明を受け、検討会では今年度の成果の活用方法や技術導入にあたって配慮すべき点を中心に活発な議論が行われ、次年度の実証に向けた課題が明確になりました。

当課では、次年度にこの技術を確認させ、マニュアル化して広く県内に普及するために、引き続き支援していく予定です。



活発な議論を行う出席者



技術実証に用いた天敵製剤とロボット草刈機